

1 3期 北摂の歴史ロマンを愉しむ トピックス(10月②)

日時：10月31日（金）10:00～12:00

教室：高槻センター街ビル

内容：班活動

班別にふれあい交流祭準備

日時：10月31日（金）13:00～15:00

教室：高槻センター街ビル

講師：中西 裕樹氏（京都先端科学大学 特任准教授）

内容：戦国時代の北摂①三好長慶・松永久秀



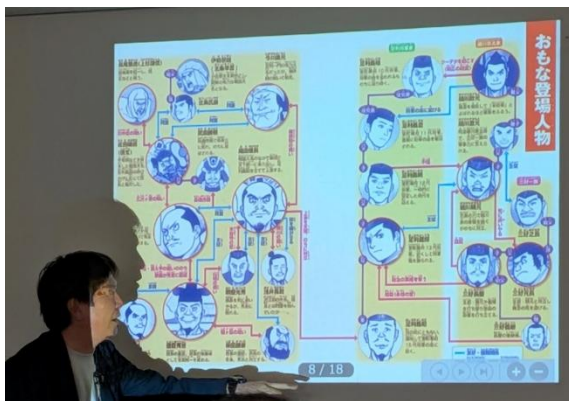
1 三好長慶と松永久秀の登場

○父元長と長慶の誕生

三好氏は阿波（徳島県）勢力。細川晴元が政敵の細川高国を倒して、足利義維を推して堺に進出「堺幕府」（1527）。中心が父の元長。阿波最大勢力の戦上手。長慶は1522年に誕生。

○父の死と主君晴元

木沢長政と元長は対立。晴元は足利義晴と結び、一向一揆が元長を自刃に追いやる。（1531）長慶は阿波へと退去。1532年長慶は晴元が制御できなくなった一向一揆との間を仲介。



三好長慶 1522～1564
松永久秀 1510～1577
細川晴元 1514～1563

○若き長慶の挙兵と越水城

晴元は芥川城に入る（1533）、長慶は河内十七か所をめぐって三好政長・晴元と対立へ。長慶勢は芥川城を占拠して上洛。六角定頼の仲介で収束。越水城を居城に。

○兄弟の結束と人材登用

河内の遊佐長教が勢力を持ち、細川氏綱と結託。晴元に対抗し芥川城を落とす。晴元や將軍義晴は京を退くが、長慶の弟・三好之虎（実休）ら来援。翌年には摂津舍利寺（大阪市）で勝利する。長慶は長教娘と再婚、地盤を固める。摂津で松永久秀ら新たな人材を権力の中核で登用、新たな権力基盤を築く。

○松永久秀 優れた外交能力と教養

久秀は弟の長頼（内藤宗勝）と4万の兵で細川晴元の軍勢を倒すなどの軍功を持ちつつ、朝廷や幕府、寺社、村落との交渉を担当する長慶の取次として活躍する。

儒教や兵法を学び茶道や連歌にも造詣が深かった。



2 天下人へ

○勝利と将軍との対決（江口の戦い 1548 年）

三好政長を擁護する晴元へ挙兵、政長を討つ。

晴元を駆逐し、足利義晴・義輝を京から追う。

芥川城入城（1553）。将軍不在の畿内支配。

各地の訴訟に対応。「永禄」改元を実行。

○天下人へ

「室町幕府奉行人奉書」（将軍の命令）は1558年の足利義輝の帰京まで、ほぼ残存しない。

将軍が帰京すると、長慶らは御相伴衆など幕府の役職に就く。飯盛城へ居城を移す（1560）。

○新たな裁き

戦国の村々では、土豪や地侍が連合して用水や治水など地域の問題を処理。

○天下の芥川城

芥川城は、三好山に立地、細川高国が築城。長慶の天下成敗の舞台。長慶と子の義興、松永久秀や石成友通ら権力中枢の人々が居住。将軍不在の京都に代わり「天下」の政庁。



三好長慶



松永久秀

3 長慶の死とその後の久秀

○破格の地位上昇

大和へ侵攻、興福寺に代わって支配開始。（1559）

将軍義輝は「弾正少弼」に任官。久秀は義興と同時に将軍の御供衆に。

長慶・義興親子には桐御紋・塗輿を許可。久秀にも許可。同じ従四位下に。

○続く肉親の死と長慶の最期

弟・十河一存病死（1561）。弟・三好実休戦死（1562）。息子・三好義興病死（1563）。

三好長慶 永禄7年（1564）飯盛城で死去。

○織田信長との関係

久秀は一乗院覚慶（義昭）を幽閉「永禄政変」（1565）、脱出した義昭は越前浅倉氏らと対立軸を形成。義継と三人衆らが松永家台頭を危惧し、久秀・久通と断交。後の三人衆による將軍義栄擁立で義継は久秀に合流し、奈良で三人衆・筒井順慶らとの戦争に突入、義昭・信長と連携し上洛を迎える。

久秀は出家・隠居、久通が信長に仕える（1574）。大坂本願寺攻めに信長は久秀にも出陣を要請、筒井順慶に大和支配を命じ、多聞城を解体。久秀は將軍義昭を軸とする毛利・武田・上杉氏や本願寺による「信長包囲網」に参加という決断。

―「今日のひと言」―

- ・信長以前の戦国畿内のダイナミックな動きをわかりやすく説明いただき、ますます興味が
かきたてられました。三好長慶が主役で大河ドラマ化に値するストーリーが展開できると
確信しました。
- ・いよいよ戦国時代に入った。歴史上の人物名もゾクゾク、関係性も複雑になってくる。
三好家、芥川城、北摂の歴史おもしろい。
- ・名前にひっぱられそうになりながら、多くの人たちが出てくるので必死に聞かせていただ
きました。楽しくお話ししていただき分かりやすかったです。

（2 班広報）